

〔指定管理者制度導入施設〕〔A調書〕

事業評価調書〔途中評価〕（令和4年度）

1. 施設の名称等

施設名称	長崎県美術館
所在地	長崎市出島町2番1号

事業所管	文化観光国際部	文化振興・世界遺産課
課（室）長名	土井口 章博	

総合計画上の位置づけ	基本戦略	3-2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る
	施策	5	特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化
	事業群	①	歴史や文化芸術による地域活性化

2. 施設の概要

設置年月日	平成 17 年 4 月 23 日						
設置法令等	長崎県美術館条例（平成15年12月22日長崎県条例第61号）						
設置目的	地域の活性化及び芸術文化活動の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境の整備を図り、もって新たな長崎県の文化の創出に寄与する。						
利用対象者等	主な利用対象者：県民及び県外客 開館時間：午前10時～午後8時、休館日：第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）						
施設内容	敷地面積9,914㎡、建築面積5,209㎡、延べ面積10,092㎡ 企画展示室、常設展示室1～5、運河ギャラリー、県民ギャラリー、ホール(150席)、講座室、アトリエ、ミュージアムショップ、カフェ、情報コーナー						
施設の利用料金体系	〔常設展利用料金〕						
		一般	大学生	小中高生	70歳以上	備考	
	普通観覧料金	420円	310円	210円	310円	○減免事項 ※県内在住の小・中学生は無料 ※障害者手帳、特定医療費（指定難病）医療受給者証等の提示者及び介護者1名は無料 ※学校行事の一環として、県内の小・中・高・盲・ろう・養護学校生が利用する場合は、引率の教員を含め無料	
	団体割引料金	340円	250円	170円	250円		15人以上
〔企画展利用料金〕 展覧会により異なる							
〔貸館利用料金〕							
	名称	面積(㎡)	利用料金 (入場料無料の場合)		備考		
	県民ギャラリー	940	34,390円/日		※入場料を徴収する場合は、左記の1.3倍 ※入場料を徴収しない展覧会等のうち、教育目的や公的機関の利用については10～3割の減免措置あり		
	運河ギャラリー	170	3,030円/日				
	ホール	210	6,810円/回				
	講座室	70	2,720円/回				
	運河劇場	330	1,040円/回				
	屋上庭園	1,200	6,390円/回				
類似施設の設置状況	施設名		岩手県立美術館	富山県美術館	大分県立美術館		
		一般	410円	300円	300円		
	入館料	大学生	310円	無料	200円		
		高校生以下	無料	無料	200円（中学生以下無料）		
	利用者数（R3実績）		69,526人	380,795人	431,357人		
	指定管理者制度導入		平成18年4月1日	平成18年4月1日	平成25年10月1日		
	管理運営負担金（R4予算）		412,837千円	非公表	302,177千円		
	延床面積		13,000㎡	9,965㎡	13,677㎡		
指定管理形態		管理（学芸部門は委託）	管理（学芸部門は直営）	管理運営			
県 予 算	区 分 (単位：千円)		平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (計画)
	財源	国 庫			10,000	5,000	
		その他（諸収入、繰入金）	347,865	351,032	353,842	353,606	352,216
		一般財源	10,000	10,000	11,065	10,000	10,000
	事業費＜A＞		357,865	361,032	374,907	368,606	362,216
	内 訳	管理運営負担金	342,035	345,202	348,369	348,370	348,370
		その他（特別経費負担金等）	15,830	15,830	26,538	20,236	13,846
		人件費＜B＞	15,944	15,908	15,648	15,580	15,362
		合計＜C=A+B＞	373,809	376,940	390,555	384,186	377,578
	単位あたりコスト		1	1	3	2	2
(説明) 「当事業による入館者1人あたりの運営費用」=C÷(入館者数)							

3. 指定管理者の概要

指定管理者の名称等	《所在地》	長崎市出島町2番1号		
	《名称》	公益財団法人長崎ミュージアム振興財団		
	《代表者氏名》	中牟田 新一		
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 ~ 令和 9 年 3 月 31 日			
業 務	①施設（設備）の維持・修繕等 ②美術館の運営（展示、調査研究活動、生涯学習・教育プログラム、国内外の美術館との連携） ③美術館のマネジメント（集客、営業、PR、イベント企画、ボランティアの活用等） ④ミュージアムショップ、カフェの経営			
利用料金制	■ 導入済	未導入	選定方法	■ 公募
				非公募

4. 成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況	①	本展・移動展や遠隔授業等の実施市町数	(目標値の根拠)		〈令和4年度実施における変更点〉		
	②	来館者満足度（5段階）	①博物館事業での実施分も含め、5年間（R3～R7）で全市町での実施を目指す。				
	③	県民ギャラリー稼働率	②アンケート5段階評価における年間平均において、4.0以上の満足度を目指す。				
	④	美術館入館者数（参考値）	③90%以上の稼働率を目指す。				
	実 績		平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（計画）
		単 位					
	①	a 目標値	市町	5	5	5	3
		b 実績値	市町	6	5	5	11
		c 達成率b/a	%	120	100	100	220
	②	a 目標値	点	4.0	4.0	4.0	4.0
b 実績値		点	4.3	4.4	4.4	4.4	
c 達成率b/a		%	107	110	110	110	
③	a 目標値	%	90	90	90	90	
	b 実績値	%	98	98	76	69	
	c 達成率b/a	%	108	108	84	76	
④	a 目標値	—	—	—	—	—	
	b 実績値	人	391,547	384,323	112,393	172,980	
	c 達成率b/a	%	—	—	—	—	
指定管理者の収支状況	事業計画 (R3)		平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（計画）
	(千円)	実績-計画					
	利用料金	40,394 ▲ 9,959	44,001	87,720	21,334	30,435	47,826
	県負担金	348,370 0	342,035	345,202	348,369	348,370	348,370
	その他	98,979 ▲ 2,241	106,271	287,051	82,191	96,738	79,744
	収入計a	487,743 ▲ 12,200	492,307	719,973	451,894	475,543	475,940
	支出b	484,067 ▲ 24,525	503,161	716,414	437,341	459,542	479,946
	うち人件費	137,023 ▲ 4,916	124,923	134,930	129,403	132,107	137,580
	収支a-b	3,676 12,325	▲ 10,854	3,559	14,553	16,001	▲ 4,006
配置職員数	常勤	25 0	常勤 24	常勤 25	常勤 25	常勤 25	常勤 25
(人)	非常勤	0 0	非常勤 0	非常勤 0	非常勤 0	非常勤 0	非常勤 0

※この収支は指定管理者が行う管理運営に係るものであり、この他に県が直接負担したのものとしては、「2. 施設の概要」の「県予算」の「その他」がある。

5. 令和3年度事業の実施状況・実績の検証

計 画	実 績
<p>管理運営の状況</p> <p><指定管理者実施分> ①美術館の管理運営業務</p> <p>②調査研究業務</p> <p>③他の美術館、博物館との連携事業</p> <p>④生涯学習、教育普及事業</p> <p>⑤アートボランティア事業</p> <p>⑥広報マーケティング事業</p> <p>(利用料金、その他自主事業) ⑦常設展事業</p> <p>⑧企画展事業</p>	<p><指定管理者実施分> ①施設の清掃、警備、機器運転業務、各種保守点検等の業務は、協定書に基づき適正に実施された。</p> <p>②収蔵作品に関する調査研究、保存修復事業、展覧会の企画・開催、生涯学習事業、美術情報に関する調査研究、須磨コレクションに関する調査研究について、協定書に基づき進めた。</p> <p>③釜山市立美術館との日韓協働事業として、長崎県立対馬高等学校と釜山情報観光高等学校をオンラインで繋ぎ、風景画制作を通してお互いの生徒が相手国の言葉で自らが描いた作品についてプレゼンテーションを行った。作品は長崎県美術館で「高校生が選んだ「とっておき」の対馬と釜山の風景展」として、双方の生徒作品の展示を実施した。</p> <p>④学校教育との連携事業であるスクールプログラムを実施し、6,216人が参加した。 移動美術館を実施し、遠隔地の方々へ美術作品に親しむ機会を提供した。(佐世保市、南島原市) TV会議システムを利用して遠隔地の小学校と遠隔授業を実施した。(吉崎市、対馬市)</p> <p>⑤92名のボランティアが、展示事業や生涯学習事業、広報、館運営などの美術館事業全般にわたるボランティア活動を実施した。</p> <p>⑥展覧会、教育普及事業を中心に広報活動を展開。自主媒体や民間公告媒体による情報発信、マスコミ誘致、取材対応などで美術館のPRと来館促進に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館や開館時間の短縮などの対応については、自主媒体を中心に随時情報発信を行い、速やかな周知に努めた。 HPへのアクセス数は675,641件(前年度比124.5%)であった。企画展へのアクセス数が多く、次にコレクション展、イベントの順に多い。企画展では特にムーミンコミックス展のアクセス数が多かった。 また、メルマガの配信やツイッター、インスタグラムを活用など、美術館に興味を持つ人へ定期的に情報発信を行った。</p> <p>(利用料金、その他自主事業) ⑦収蔵作品の展示に加え、2021年が長崎開港450周年にあたることから、その記念展を開催したほか、開館以来継続してきた長崎ゆかりの美術を深く掘り下げ紹介する小企画展として「池野 清展」、本県名誉県民 松尾 敏男氏の没後5年の展示など、長崎ゆかりの多様な美術を紹介した。また、収蔵名品展や須磨コレクション、スペイン近現代美術などを工夫を加えながら展示し、収蔵作品の新たな魅力発信に努めた。 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入館者数は27,783人(館計画比79.4%)となった。</p> <p>⑧新型コロナウイルスの感染状況に応じて臨時休館や開館時間の短縮を実施したが、計画していた企画展は臨時休館に伴う会期の短縮を除き、予定どおり開催することができた。所蔵作品で構成した「土地の名展」や、日本のアニメーション美術をけん引してきた山本 二三氏の「五島百景」完成を記念して開催した「山本 二三展」など、魅力溢れる企画展の開催に努めた。 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入館者数は82,241人(館計画比83.1%)となった。</p>

管理運営の状況

⑨施設貸出事業

⑨新型コロナウイルス感染症の影響を受け、県民ギャラリー一等の展覧会中止や延期、ホール・講座室等の利用キャンセル（56件）が相次ぐ中、感染状況に左右されながらも美術鑑賞や会議等の活用場として利用促進に努めた。
 県民ギャラリーの利用は42団体、利用日数226日（稼働率69%）であった。県民ギャラリー等の利用者数は73,146人であり、全入館者数の42%を占めている。

⑩ショップ・カフェ事業

⑩ショップはコロナ禍での生活を意識した品揃えや展覧会客層に合わせたフェアを開催するなど工夫した店舗展開を行い、カフェはテイクアウトメニューを中心に長崎にこだわった食材の取り入れや季節に応じたメニューの提供を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館や開館時間の短縮で客数が伸びず、ショップは2,597千円の黒字となったものの、カフェは642千円の赤字となった。

<県実施分>

①施設や備品の修繕業務等

<県実施分>

①空調熱源システムの大規模改修工事（令和4年度までの2カ年計画）を実施した。

検 証

○新型コロナウイルスの感染状況に応じて臨時休館や開館時間の短縮を行うなど、昨年度に引き続き館運営は大きな影響を受けた。年間入館者数は172,980人と令和元年度比で約4割程度にとどまったものの、過去最も少ない入館者数であった昨年度の112,393人を上回り、回復傾向にある。また、来館者の満足度は88%と目標の80%を上回ることができた。

○常設展事業は、収蔵作品の展示に加え、2021年が長崎開港450周年にあたることから、その記念展を開催したほか、開館以来継続してきた長崎ゆかりの美術を深く掘り下げ紹介する小企画展として「池野 清展」、本県名誉県民松尾 敏男氏の没後5年の展示など、長崎ゆかりの多様な美術を紹介した。また、収蔵名品展や須磨コレクション、スペイン近現代美術などを工夫を加えながら展示し、収蔵作品の新たな魅力発信に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入館者数は27,783人（館計画比79.4%）となったものの、昨年度の21,878人を上回り、回復傾向にある。

○企画展事業は、新型コロナウイルスの感染状況に応じて臨時休館や開館時間の短縮を実施したが、計画していた企画展は臨時休館に伴う会期の短縮を除き、予定どおり開催することができた。所蔵作品で構成した「土地の名展」や、日本のアニメーション美術をけん引してきた山本 二三氏の「五島百景」完成を記念して開催した「山本二三展」など、魅力溢れる企画展の開催に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入館者数は82,241人（館計画比83.1%）となったものの、昨年度の44,083人を上回り、回復傾向にある。

○県民ギャラリーは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、展覧会中止や延期、ホール・講座室等の利用キャンセル（56件）が相次ぐ中、感染状況に左右されながらも美術鑑賞や会議等の活用場として利用促進に努めた。稼働率は目標の90%に対し、69%の利用となったが、貸施設全体の利用者数は73,146人と全入館者数の42%を占めており、コロナ禍の状況下において県民の文化活動の場として広く活用されている。

○経営面では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、昨年度に引き続き館運営は大きな制限を受けたが、旅費交通費等の運営費の縮減に取り組んだほか、新型コロナウイルス感染症対策として雇用調整助成金等の助成制度を活用した結果、16,001千円の黒字計上となった。

収支計画・実績

<指定管理者実施分>

(単位：千円)

主な項目	計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等
収入 a	487,743	475,543	
負担金	348,370	348,370	
利用料金	40,394	30,435	新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施した臨時休館に伴う企画展の会期短縮や開館時間の短縮を行ったことによる収入減。
うち常設展収入	2,671	2,684	
うち企画展収入	32,360	19,791	
その他	98,979	96,738	
うちショップ収入	65,700	38,211	
うちカフェ収入	9,479	8,068	新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施した臨時休館や開館時間の短縮に伴い、客数が伸びなかったことによる収入減。
支出 b	484,067	459,542	
人件費、事務費	137,023	132,107	新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことによる業務費用減。
施設管理維持費	167,137	173,952	施設の劣化に伴う維持管理費増。
利用料金	71,366	65,305	新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことによる業務費用減。
うち常設展支出	19,493	18,933	
うち企画展支出	51,873	46,372	
その他	108,541	88,178	・ショップは新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことによる業務費用減。 ・カフェはコロナ禍の中、美術館利用者以外のテイクアウト需要の掘り起こしにも力を入れたことによる業務費用増。
うちショップ支出	62,164	37,663	
うちカフェ支出	9,256	12,705	
収支 a-b	3,676	16,001	

収支の状況

検 証	
収 支 の 状 況	<p>【収入の部】 計画比12,200千円の減 ○常設展・企画展観覧料収入は、新型コロナウイルス感染症の影響下において計画していた企画展は予定どおり開催することができたものの、感染状況に応じて実施した臨時休館に伴う企画展の会期短縮や開館時間の短縮を行ったことにより、12,556千円の減となった。 ○ショップ・カフェ収入について、ショップはコロナ禍での生活を意識した品揃えや展覧会客層に合わせたフェアを開催するなど工夫した店舗展開を行い、カフェはテイクアウトメニューを中心に長崎にこだわった食材の取り入れや季節に応じたメニューの提供を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、臨時休館や開館時間の短縮を行ったことにより客数が伸びず、28,900千円の減となった。</p> <p>【支出の部】 計画比24,525千円の減 ○常設展・企画展事業は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、作品借用に係る連絡調整や現地調査が制限されたこと等により、6,061千円の業務費用減となった。 ○ショップ・カフェ事業は、ショップは新型コロナウイルス感染症の影響を受け、商品仕入れの調整を行ったこと等により、24,501千円の業務費用減となったが、カフェはコロナ禍の中、美術館利用者以外のテイクアウト需要の掘り起こしにも力を入れたことにより、3,449千円の増となった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き館運営は大きな制限を受け、館を取り巻く運営環境も厳しい状況であったが、旅費交通費等の運営費の縮減に取り組んだほか、新型コロナウイルス感染症対策として雇用調整助成金等の助成制度を活用したことにより、収支は当初計画3,676千円に対し16,001千円の黒字計上となり、コロナ禍による経営悪化を回避できた。</p>
指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価	
B	
(説明) ○生涯学習・教育普及事業では、学校との連携事業であるスクールプログラムの実施、移動美術館の開催、遠隔授業の実施、企画展に関連したワークショップの実施など、幅広い年齢層へ学習の機会を提供した。 ○新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年間入館者数は172,980人と令和元年度比で約4割程度にとどまったものの、過去最も少ない入館者数であった昨年度の112,393人を上回り、回復傾向にある。来館者の満足度は88%と目標の80%を上回った。 ○県民ギャラリーの稼働率は目標の90%に対して69%にとどまったが、県民ギャラリー等の利用者数は73,146人と全入館者数の42%を占めており、コロナ禍の状況下において県民の文化活動の場として広く活用されている。 ○経営面では新型コロナウイルス感染症の影響を受け、臨時休館や開館時間の短縮を実施するなど、昨年度に引き続き館運営は大きな制限を受けたが、新型コロナウイルス感染症対策として雇用調整助成金等の助成制度を活用した結果、年間収支は黒字を計上した。	

6. 令和4年度事業の実施にあたり見直した内容

内 容
○令和4年度は新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見通せない中、館運営を取り巻く環境は引き続き厳しい状況が想定されるが、収蔵作品を活かした「テクテクテクネー展」、絵本原画展の「アーノルド・ローベル」展など多様なジャンルの企画展を開催し、多くの県民のニーズに応えるとともに、令和4年9月の西九州新幹線の開業直後に開催する20世紀美術最大の巨匠パブロ・ピカソの展覧会を通じて新たな来館者層の発掘を図り、交流人口の拡大に寄与していく。財務面についても運営費等の縮減や、積極的な広報・販促活動を実施し、収入の確保に努めていく。 ○新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底し、引き続き業界のガイドラインに沿った安全・安心な館運営を行っていく。 ○収益事業であるショップ・カフェ事業は、ショップについては展覧会毎の客層に合わせた商品ラインナップの充実や長崎コーナーの拡充、長崎在住作家のフェア等の開催、カフェについては季節に合ったメニューや来館者のニーズに合ったテイクアウト商品の提供、展覧会に合わせた商品の開発を行うことで収支の黒字化を図っていく。 ○コロナ禍における国・民間団体等の各種助成金の積極的な活用及びマスクと連携して新たな協賛金を獲得するとともに、地元事業者や長崎進出事業者からの法人会員獲得を図ることで、引き続き新たな自主財源の確保を目指す。

7. 令和4年度事業の評価

※評価区分（a：行われている、b：一部行われていない、c：行われていない）

		視点	評価	判定理由
指定管理者の行う管理運営等に関する評価		・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。	a	・新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見通せない中、オンライン配信や感染防止対策を徹底したイベントの実施等、可能な限り県民へ芸術に触れる機会を提供している。 ・県民の文化・芸術活動の充実に貢献するため、県民ギャラリーやホール等の貸し施設の利用を促進している。
		・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。	a	・利用料金の減免について明確な基準を作成し、ホームページで公開することによって、住民の公平かつ平等な利用を確保している。 ・遠隔地の住民の方にも、美術館の作品を鑑賞する機会を提供するため、年2回の移動美術館を予定している。
		・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。	a	・来館者アンケート調査によって、利用者の満足度を把握するとともに、利用者の声を館の運営に活用することで、サービスを向上させている。 ・アートボランティアの研修を定期的に行い、サービスの質的向上を図っている。
		・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。	a	施設設備の保守点検、清掃等の実施については、協定書に基づき適切な管理が行われ、施設の機能は適正に維持されている。
		・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。	a	企画展において、集客力のある魅力的な大型展を計画している。また、ショップにおいて、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産等の品揃えに努めている。
		・経費節減に向けた取り組みが行われているか。	a	全館的に事務的経費や光熱水費の節減に取り組んでいる。
(その他の観点)				
施設の在り方についての評価	必要性	・県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 薄れていない b. 一部薄れている c. 薄れている 	入館者アンケートでは、入館者に占める県民の割合が令和2年度は706人中60%、令和3年度は1,246人中66%と過半数以上を占めており、必要性は薄れていない。
		・事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適応しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 適応している b. 一部適応していない c. 適応していない 	地域活性化の核となり、文化を活かしたまちづくりの拠点となっている。
		・市町または民間に移管・移譲することが適当（可能）ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 適当（可能）でない b. 一部適当（可能）でない c. 適当（可能）である 	県が政策的に設置した美術館であるため、市町では県全体の施策が実現できず、民間移譲では文化の継続性が保持できない。

施設の在り方についての評価	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 得られている b. 一部得られている c. 得られていない 	新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、入館者数は過去最も少ない入館者数であった令和2年度から回復傾向にあり、これまでの入館者数実績は全国の都道府県立美術館の中でも高い入館者数を維持している。
		<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量でより大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 代えられない b. 一部代えられない c. 代えられる 	直営は人件費を中心に県負担が大幅に増加するため困難だが、他の制度も含め指定管理者制度との比較検討を行う余地はある。
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度は、施設の設置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. なっている b. 一部なっていない c. なっていない 	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部成果指標が未達成となったが、適正な施設管理を行い、また、生涯学習事業や教育普及事業にも注力しており、幼児から高齢者に至るまで、あらゆる世代の活動の場、学習の場となっている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業効果をさらに上げる余地はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> a. 余地はない ■ b. 一部余地がある c. 余地がある 	県の芸術文化活動の拠点施設として、すべての県民が優れた文化芸術に触れる機会を提供できるよう、移動展や遠隔授業といった出張事業を今後も計画的に開催する。
(その他の観点)				

8. 令和5年度事業の実施に向けた方向性

区分	現状維持	■ 改善	移管	廃止
(説明：令和5年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容)				
○引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策や三密回避を徹底した上で、スペイン美術を標榜する美術館としてヨーロッパの近現代美術を本格的に紹介する大型企画展や、西九州新幹線の開業による県外からの観光客にも足を運んでもらえるような魅力的な展覧会を開催し、優れた美術作品の鑑賞機会の提供や交流人口の拡大に寄与するとともに、オンライン等も駆使し、子供から大人まで、県内どこにいても良質な文化芸術に触れることのできる機会を提供していく。				
○建設から17年以上が経過し、施設の劣化に伴う不具合が頻発しており、維持管理費の増加が予想されるため、今後も光熱水費や事務的経費の削減に努めるとともに、大規模修繕が必要となる前に、毎日の点検及び早期修繕にしっかりと取り組んでいく。				
○県民ギャラリーを中心とした施設貸出事業は、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底しながら、県民の積極的な利用促進を図っていく。				
○指定管理者の経営基盤を安定化させるため、引き続き運営費等の縮減に取り組むとともに積極的な広報・販促活動の実施により収入の確保に努める。ショップ事業では展覧会毎の客層に合わせた商品ラインナップの更なる充実強化を図り、カフェ事業ではコスト削減に取り組みながら季節に合ったメニューや来館者のニーズに合ったテイクアウト商品の提供、展覧会に合わせた商品の開発を行うことで安定した黒字化を目指す。				